

# JR西労組中央本部青年女性委員会 第33回定期委員会(発言集約要旨)

## 青女の原点「つながり」を大切に 仲間と力を合わせ西労組運動を推し進めよう

JR西労組中央本部青年女性委員会は、10月1日(日)と10月2日(月)に、岡山地方本部青年女性委員会準備のもと、ピュアタイムまきびにおいて、「第33回定期委員会」を開催した。委員、傍聴者を含めて約130名が集まった。委員長に、深水委員(金沢地本)と高橋委員(岡山地本)を選出し、議事を進めた。沖島青年女性委員長は、安全政治2023年度総合労働協約改訂と春闘組織の充実、青年女性委員会活動について、挨拶を行った。その中で、「青女の解決と提案力は会社で経験できないことである。全員で力を合わせて頑張ろう」と青年女性組合員に呼びかけた。議事では、20名の委員から、59項目について発言があり、活動方針に対する補強が行われた。その後、メインスローガン、活動方針等が満場一致で採択された。役員改選では、李澤青年女性委員長を中心とする新たな役員体制が発足し、李澤青年女性委員長の団結ガンバローで締めくくられた。



新たに就任した李澤委員長による団結ガンバロー

数を確認したうえで、各分会から最低1名1年間役員として選出するように改正していただきたい。

●大保線区化(合併)が進んでいる。いろんな部署から意見を吸い上げるとい意味で、支部や地本の組み合わせを変え

る等、工夫しては如何か。  
●地上職の基本給の増額を。近川 弘成(和歌山地本) ●組織について、青女で年齢差を感じている。下の世代への継承が不安である。  
●車掌試験に合格しているのに車掌になれない。要員の配置を考えてほしい。

●現在の不妊治療支援休職制度を、人口受精やタイミング法でも適用してほしい。  
●乗務員の平均年齢50代。幅広い年代で離職がある。定期便の運行中止も多々。離職防止に

●車両系統は責任者手当てが出ない。若手組合員の働く意欲低下に繋がっている。  
●デジタル化への移行が進むが、その際の説明がない。PCやタブレットの使用方法も教育すべきである。賃金実態調査もWEBか紙かを選択させてほしい。

●住宅補給金の23,000円は低い。見合った各種手当の金額の再検討を願いたい。  
●和田 拓巳(福知山地本) ●福知山地本青女では、これ以上語り継がなければならない事故を発生させないために、事故を知る取り組みを行ってきた。

●最近、採用数が減ったり、若手世代の離職が相次いでいる。福利厚生はしっかりしているが、基本給が低い。  
●G会社社員が感電墜落事故で亡くなった。G会社との話し合いの場がない。安全お守り手帳の好事例を教えしてほしい。  
●チケットレスの徳運について、MVプラスを導入しているが、待ち時間が長い。MVプラス増設や、オペレータの増員の検討を。



横山委員



大隅委員



奥中委員



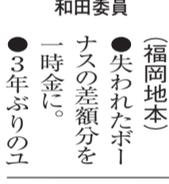
板倉委員



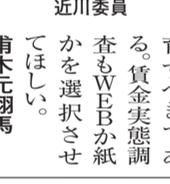
和田委員



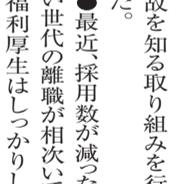
近川委員



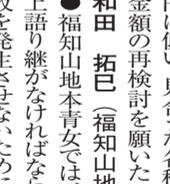
南木元委員



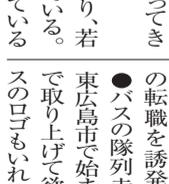
谷口委員



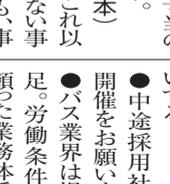
浦木元委員



岩崎委員



谷口 真也



岩崎 真也

### 全体質疑

大隅 頌也(岡山地本) ●青女世代にも人間ドックを受診できるようにしてほしい。  
●苦境の中、業務に尽力した組合員のために一時金を。  
●組合費の内訳が分からず、組合費が高いと思われている。  
●青女世代の組合離れが加

速。インスタでの情報発信、ムービー等の活用を。  
横山 昇吾(神戸地本) ●役員が固定化しているため、地本と支部で役員の取り合いとなっている。  
板倉 尚也(米子地本) ●地本青女定期委員会に組

休の適用を。  
●インスタの行事の楽しそうな様子が伝わってくる。  
●22歳元車両系統社員が、先輩社員の給料を知り、将来を見据えた結果、不安が残り離職した。改めて賃金改善をお願いする。  
奥中 潤(大阪地本) ●役員の内継ぎに困っている。組合運営規則などに、全体の母

### 沖島青年女性委員長挨拶(要旨)

## 世界で一番安全なJRを全組合員一丸となって作り上げていこう

#### はじめに

新型コロナウイルスが第5類感染症へと見直され、はや5カ月が経過する。JRのご利用はコロナ前には届かないものの、2022年度決算で3年ぶりの黒字転換を果たした。一方で、2年間で約3,500億円という巨額の赤字を計上し、厳しい状況に置かれていることには変わりはない。

私たち青年女性組合員としても、全組合員が一丸となって、全員参画でこの難局を乗り越えていこう。

#### 最優先課題である安全について

この1年間、JR西日本管内で3件、JR全体では5件の死亡労災が発生している。私たち青年女性組合員は事故後入社の組合員である。だからこそ事故を知る取り組みが大切である。

過去に語られることによって他者と共有され、それに耳を傾けることで個人の体験が未来に向けた全体の記憶と経験になり、その営みの積み重ねが文化となる。この文化を忘れず、今のルールが何故あるのかを理解し、守りにくいルールや実態に合わないものは発信し、さらなる安全を追い求めてほしい。JRに関わらず人財難の影響は世間で発生しており、要員問題で安全が損なわれることもあってはならない。労働組合の機能であるチェック機能を活かし、青年女性委員会からも安全を創りあげ、そういった気概で取り組み、世界で一番安全なJRを全組合員一丸となって作り上げていこう。

#### 政治について

まず、春に行われた第20回統一地方選挙では、8名の議員が立候補し、7名の議員が当選した結果となった。その他にもJR西労組議員団会議所属議員の選挙をはじめ、ご尽力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。

この1年間、ユーススタディやユーススピリットなど、様々な機会を通じて組織内議員や政治の身近さを感じられるような取り組みを展開してきた。

会社は9月28日の社長会見で、芸備線 備中神代から備後庄原間について、「10月に入りなるべく早い時期に対応したい」と、国が鉄道事業の再構築に関わる、再構築協議会の設置を国に要請する考えを示している。

耳にタコができるほど言っているが、政治は無関心でも無関係ではいられない。まずは1票を捨てない取り組み、世間的にも投票率の低い私たち青女世代の皆が投票へ行くようにすることから始めていこう。

#### 労働協約改訂交渉、春闘について

労働協約改訂交渉では、すべての組

合員が真に働きやすい環境整備に向け、「かけがえのない人財とともに明るく未来」に繋がる回答として、配偶者同行制度やコロナ禍での一時的な取扱いの恒久化、女性特有の健康課題に対する支援などを引き出し妥結した。

勝ち取った制度は使われないと効果は発揮されない。私たち、青女世代もしっかりと理解をして、自分たちの口で説明してほしい。

また、春闘では、離職の増加、採用競争力の低下を受けた回答となった。そのため、初任給調整手当が大きく適用されることとなった。

かけがえのない人財への投資に向けて、引き続き継続した賃上げに向けて取り組みをすすめていく。

#### 組織について

今年の新規採用者への加入行動も、みなさんのおかげで、494名全員に加入していただいた。今年は各地本や支部・分会で歓迎会を行うなどの取り組みも再開できた。また、新採加入の取り組みは年々厳しさを増しており、役員世代交代や五月雨式に入社する社会人採用の対応も考慮すると、より取り組みを強化しなければならないと感じている。

#### 青年女性委員会活動について

今年度はフルスペックに近い行事を展開してきた。そして、各地本では、支部と合同で開催したり、隣接する地本を呼んだり、グループ労組にも参加いただくなど、これまで以上に仲間の輪を広げる取り組みを進めて頂いていることに深く感謝申し上げます。

青年女性委員会の最大の目的は仲間づくりである。それは、レクであったり、勉強会であったり、ボランティアであったり、あくまでこれらも手法の違いでしかない。行事を開催する中でどのようなエッセンスを入れて仲間づくりを展開するかである。

今の青女世代は個人の時間を大切にしている。SNSでつながる関係があるから良いという人もいると思うが、私たちはリアルでの活動にこだわっている。対面でも感じられない空気や表情、雰囲気や必ずある。そして、非対面では強い横つながりができないと思っている。

様々な考え方や知識を持つ人達を知る、人脈を広げるということは、組合に限らず人として成長していく上での財産になる。そして、それが身近にできるのがJR西労組である。

食わず嫌いを作らず、全員参画で青年女性委員会を盛り立てていこう。